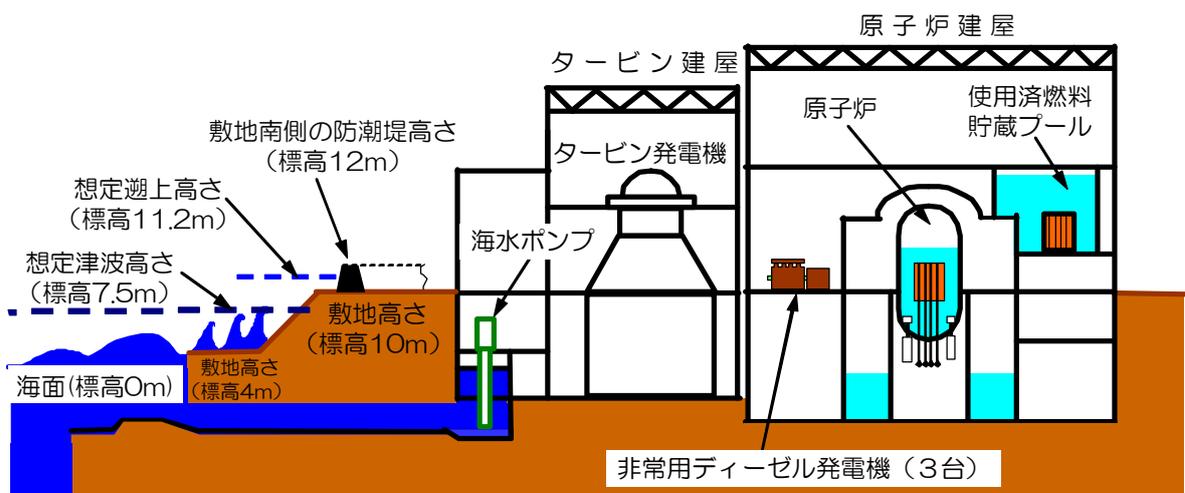


### 東通原子力発電所における津波に対する考え方について

東通原子力発電所において想定される津波の水位は、過去に起きた津波や今後想定される三陸沖地震、十勝沖地震による津波などから、発電所の敷地前面における津波高さは標高7.5m、発電所の敷地を遡上してくる津波は、敷地の南側において最高で標高11.2mまで達する可能性があるとして評価しています。これに対して、発電所の敷地の高さは標高10mとしており、津波が遡上してくる南側には標高12mの防潮堤を設置する計画としております。

また、当社は、発電所の敷地を含む下北半島の沿岸で津波による堆積物の調査を平成22年度に実施しています。この中で、敷地内においては、過去の津波により遡上して堆積した可能性のある砂の層が、標高8m付近まで分布していることを確認していますが、標高11m付近に分布する地層内には確認されず、上記で評価している発電所の敷地を遡上してくる可能性がある津波高さ標高11.2mを超える場所で、津波による堆積物は確認されませんでした。

当社は、今後も引き続き、地震や津波の情報を収集し、発電所の安全性を高めるため、適切に対処してまいります。



現状の津波に対する考え方イメージ図